

## 小学部 第2学年 生活単元学習 学習指導案

日 時：令和4年1月26日（水）10：50～11：35

場 所：小中学部校舎 小学部2年1組教室

指導者：森 愛子（T1） 岸 英子（T2）

菅原 美奈子（T3）

### 1 単元名 えほんのせかいへようこそ3～『かまくらレストラン』の劇をしよう～

### 2 目標

- (1) 絵本『かまくらレストラン』の読み聞かせを楽しみ、季節(冬)の特徴や行事などに気付き、言葉や動作で表現する。**知 技**
- (2) 絵本に登場する物の名前や動作などが分かり、人前で発表して観客の反応を感じ取り、劇遊びの楽しさを味わいながら表現する。**思判表**
- (3) 劇遊びでの自分の役割を果たしたり、友達と協力して小道具の制作や操作、準備、片付けに取り組んだりする。**学 人**

### 3 児童と単元について

#### (1) 児童観

本学級は男子2名、女子3名の学級集団である。コミュニケーションに関しては、単語や身振りで思いを伝える児童、文字を理解することは難しいが絵本の挿絵を見ておおよその内容を楽しめる児童、平仮名が読めて友達や教師に積極的に話し掛けて会話を楽しむことができる児童など実態は様々である。学級の友達の名前を覚え、友達の活動に注目したり自分から友達に関わって遊ぼうとしたりする姿が多く見られるようになったことから、今年度はさらに友達と協力する、一緒に活動・行動する、集団での約束を守るといった集団活動の基礎的な力を高めていきたいと考えて学級経営を行っている。

「えほんのせかいへようこそ1」では、絵本『そらいろのたね』の劇遊びに取り組んだ。本単元とは別の単元であさがおやミニひまわりの栽培の学習を通して、「たねまき」や「水やり」という言葉が分かり、挿絵を見ながら動作をまねしたり、外に置いてある鉢を指さしたりするなど、絵本と実際に経験したことや日常で使われている物との関連性に気付いている様子が見られた。また、絵本の内容を覚えて自分の役の練習をしたり、授業が始まる前に教室内の道具や椅子の設置などを子供同士で行ったりすることができるようになった。保護者や小学部の児童の前で表現したり伝えたりすることの楽しさを味わい、称賛される経験をしたことで、その後の横耀祭でのステージ発表に意欲的に取り組む姿も見られた。

「えほんのせかいへようこそ2」では、絵本『サンタのおまじない』の劇遊びに取り組んだ。絵本を映したテレビ画面や提示された児童の顔写真を手掛かりにして自分の出番に気付き、意欲的に発表する姿が見られた。学習の最後には発表の場面を設け、観客（小学部の児童）に、絵本に書かれているクイズを出し、質問や答え、「正解です」などのやり取りを楽しみながら発表することができた。

#### (2) 単元観

本学級では、国語の授業の初めに読み聞かせを行い、絵本に親しむ学習を設けている。平仮名などの文字を読むことが難しくとも、繰り返しの言葉や挿絵の動作をまねするなど、絵本の楽しさを感じている様子が見られる。

絵本を題材にした劇遊びは、言葉や動作など様々な表現方法を知ることができ、学んだ表現を日常生活場面でも生かすことができると考える。また、人前で発表することで、観ている人が楽しんだり喜んだりする様子を観ることができ、表現することの楽しさを味わうことができると考えた。

「えほんのせかいへようこそ3」は実施時期（1、2月）に合わせ、昨年本校で行われた「横

耀雪まつり」で児童が経験したかまくらを題材にした絵本を取り上げる。冬という季節やかまくらまつりに関係する事柄を知り、おしるこのふるまいや「あがってたんせ」という語り掛けの言葉、雪遊びや冬にまつわる歌の表現活動などを取り入れ、絵本に出てくる登場人物になりきって劇遊びを楽しむことができる劇のシナリオを展開したいと考えている。また、劇遊びで自分の役割を果たして物語が進み、物語の最後の「おしまい」までたどり着くことで、友達と一つのものを完成させる楽しさや達成感を味わわせたいと考えている。本校小学部では、毎年2月に絵本の読み聞かせ団体である「れんげ草の会」の方々を招いて「ボランティアさんありがとうの会」を行っており、たくさん楽しい絵本を読んでもらったことに感謝しながら、劇を発表する場にしたいと考えている。

### (3) 指導観

#### 季節（冬）の特徴や行事などに気付くために

- ・国語科の読み聞かせでも、冬に関係する様々な絵本を取り上げ、本単元で扱う絵本と関連付けて学習する。
- ・劇遊びはかまくらやおしるこ、雪、ふぶき、「ぽっかぽか」などの冬の言葉や絵が出てくる絵本『かまくらレストラン』を題材に取り上げ、読み聞かせを行う。
- ・昨年度の「横耀雪まつり」時の学習の様子の写真を見て、かまくら、そり遊び、長靴、手袋など冬の言葉を引き出す。
- ・飾りの制作は、お花紙の感触や重ねる・透けるなど色合いの違いを味わいながら手でちぎったり、水のりで貼り合わせたりすることで、絵本『かまくらレストラン』の世界観に沿って制作し、劇中に使用する。
- ・音楽の授業で歌った「こぐまの二月」「ゆき」など、1・2月によく耳にする曲をBGMとして取り入れる。

#### 絵本に登場する物の名前や動作などが分かり、劇遊びができるために

- ・児童が使用する小道具（熊のお面やおばあさんのかつらなど）は、それぞれの袋に分けておき、場面に合わせて選んで取り出し、身に着けるなど、自分で判断して用意できるようにする。
- ・絵本に出てくるおしるこのふるまいの場面では、横手のかまくらまつりにも使われる「あがってたんせ」という台詞を取り入れる。
- ・「寒い」「吹雪」「あたたかい（ぽっかぽか）」「おいしいね」など冬にまつわる言葉を動作化して表現できるようにする。
- ・児童が劇の流れが分かって意欲的に進行したり、自分が待つ時間にも物語の進み方に注目したりできるように、スイッチを押すと絵が動いたり絵本のページがめくられたりするなどの仕掛けをプレゼンテーションソフト（Power Point、Keynote）で作成し用意する。

#### 劇遊びでの自分の役割を果たしたり、友達と協力して小道具の制作や操作、準備や片付けに取り組んだりするために

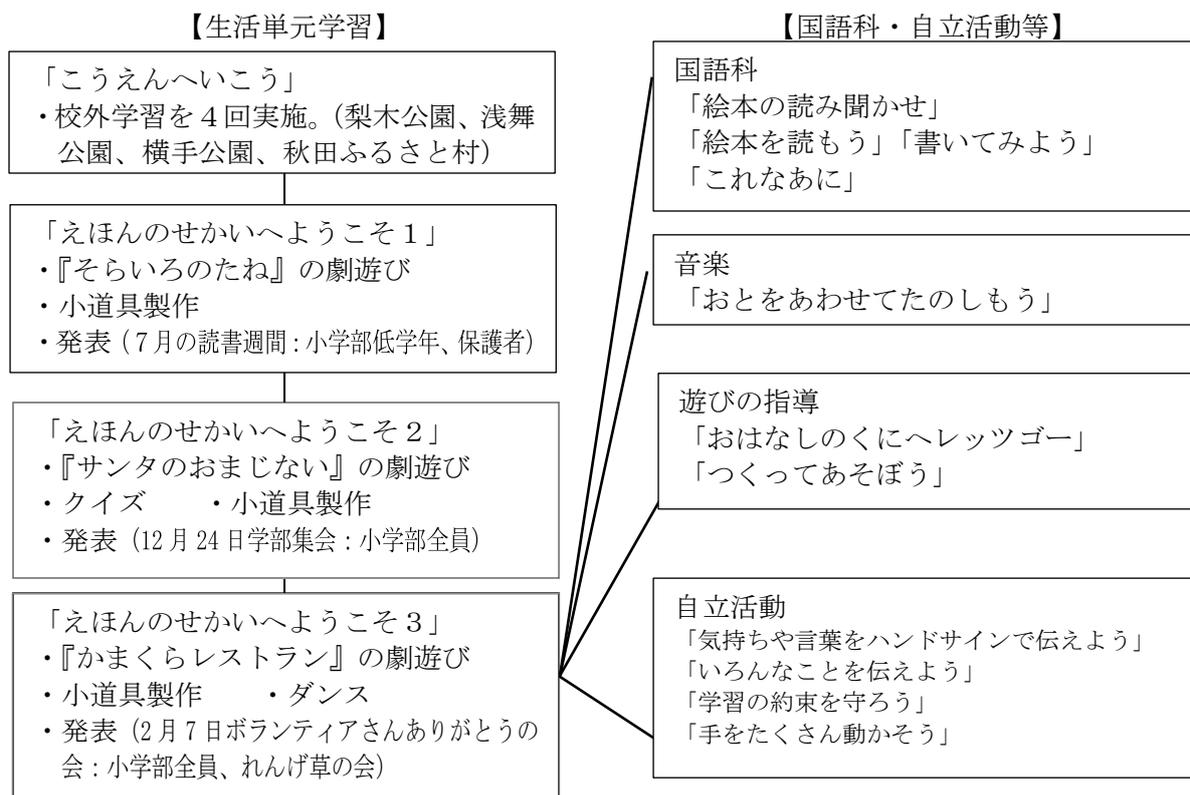
- ・学習する内容や日にちなどを常時確認できるように、学習予定表や劇中の役割表を教室壁面に掲示する。導入やまとめのときに、重要なところに注目できるように、大型テレビ画面にめあてや学習予定表を写す。
- ・友達や自分の頑張りを認め合うことができるよう、タブレット型端末（iPad）を用いて劇の様子を撮影し、大型テレビで観て、自分たちの劇発表を振り返る時間を設定する。
- ・友達と一緒に椅子や小道具等を運んだり並べたりできるように、準備や片付けの場所が分かるように定位置に置くようにし「友達と一緒に」と言葉を掛ける。
- ・劇中での役を果たしたり、友達と関わり合いながら冬の手遊び歌を披露したりするなど、自分の役割が果たされることで物語が進んでいく状況を設定する。まとめの場面で大型テレビ画面に劇遊びの様子を映し、役割が果たされているかを見て評価する場面を設定する。

4 指導計画（総時数 14 時間）

小単元名	主なねらい	活動内容	時間
冬を見つけよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2月に関わりが深い物や言葉を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬の絵本『かまくらレストラン』の読み聞かせを聞く。</li> <li>昨年「横耀雪まつり」の写真を見て様子を思い出し、言葉にしたり指さしたりする。</li> <li>絵本『かまくらレストラン』を模倣した飾り作りをする。</li> </ul>	2 時間
『かまくらレストラン』の劇をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習予定に見通しをもつ。</li> <li>絵本が3場面に分かれていることを知る。</li> <li>劇に使う小道具が分かる。</li> <li>劇に使う椅子や観客用の椅子の場所が分かる。</li> <li>絵本の読み聞かせで、おおよその絵本の流れが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習予定表を見て、発表する日にちや見てもらう相手を知る。</li> <li>絵本の読み聞かせを聞き、「旅人とおばあさん」「くまとおばあさん」「子どもたちとおばあさん」の3場面に分かれていることを知る。それぞれの場面に出てくるものや台詞が分かり、簡単な質問に答える。</li> <li>教師の指示を聞いて自分が操作する小道具を選んだり、友達と一緒に椅子を並べたりする。</li> </ul>	2 時間
	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本を写したテレビ画面や言葉掛けをヒントにして、劇中で自分が使う小道具の操作や台詞に気付き、劇練習に取り組む。</li> </ul> <p>【場面1 旅人とおばあさん】 【場面2 くまとおばあさん】 【場面3 子どもたちとおばあさん】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビ画面の絵本の流れに沿って、小道具を操作したり、台詞を話したりしながら劇遊びをする。</li> <li>友達と一緒に、どこに置けばよいかを考えながら、準備時に椅子を並べる。</li> </ul>	6 時間 (本時 6/6) ※場面1～3に分け、それぞれ2時間ずつ練習する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>劇中の自分の役割や台詞を覚え、前時よりも少ない教師の言葉掛けや支援で劇練習に取り組む。</li> <li>録画されたものを見て、自分の役割が果たされているかに気付く。</li> <li>友達と一緒に活動することを意識しながら劇の準備や片付けに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>劇の進行に合わせて台詞を話したり小道具を操作したりする。</li> <li>友達と一緒に椅子や小道具を準備する。</li> </ul>	3 時間
『かまくらレストラン』の劇を発表しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>見ている人(れんげ草の会のみなさんや小学部の友達)の反応を感じながら、表現することを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアさんありがとうの会(2月7日)で発表する。</li> </ul>	1 時間

※遊びの時間に、中庭や高等部棟周辺の散策をして、冬の外の様子を知る学習を行う。

他の教科との関連



5 本時の計画

(1) 本時の目標

- ・絵本を写したテレビ画面や教師の言葉掛けをヒントにして、劇中で自分が使う小道具の操作や台詞に気付いて演じる。

(2) 個別の目標

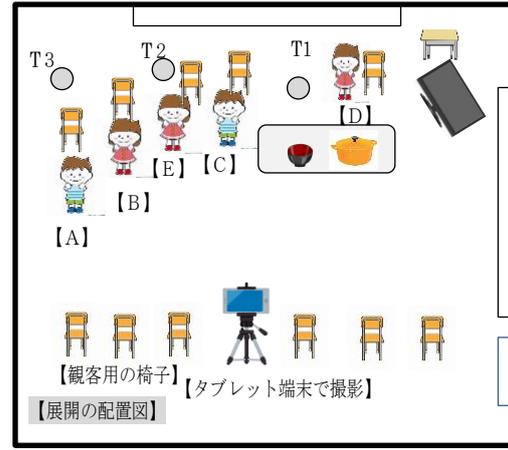
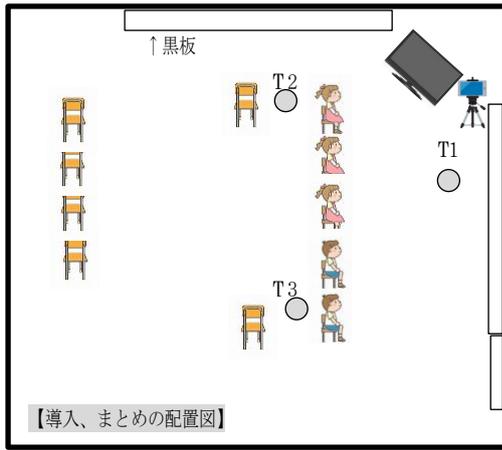
児童名	本時の主たる目標 (期待する具体的な学びの姿)	評価
A	・自分の出番に気付き、動作(おいしいね、ごちそうさまの手話)を交えたり、手遊び歌の一部(ゆきだるま、かまくら)を表現したりする。	
B	・自分の出番に気付き、簡単な台詞(「ぼっかぼかのなかなおり」)を話す。	
C	・絵本の一部を音読したり、友達との掛け合い(「いたい」「ひどいじゃないか」等)の台詞を聞こえる声で話したりをする。	
D	・おばあさんの役割(おしるこをよそう、振る舞う)を演じたり、iPadを操作して物語の一部を進行したりする。	
E	・自分の出番に気付き、動作と一緒に言葉(おいしいね、ごちそうさま、またあした)を話したり、手遊び歌の一部を表現したりする。	

評価について：○本時の目標に迫っている    △：支援、手立ての改善が必要である

## (3) 展開

段階	学習活動	指導上の手立て (○)、伝える力に係る手立て (◇)	準備物
導入 (12分)	<p>1 本時の学習とめあて、約束について知る。</p> <p>2 劇中に出てくる手遊び歌 (とんとんゆきあそび) を練習する。</p> <p>3 めあての再確認をし、みんなで学級の合い言葉を言う。</p>	<p>○本時の学習内容が分かるよう、壁面に学習予定表、めあて、劇中の役割表を掲示する。また、テレビの大画面でもめあてや学習予定を確認できるようにする。</p> <p>◇劇中で盛り上がる部分の手遊びに出てくる「ゆきだるま」「かまくら」「ゆきがっせん」などの表現を練習する。</p> <p>○友達と一緒に意欲的に活動に取り組めるよう、身振りを付けながら合い言葉を言う。</p>	<p>学習予定表、役割表 (壁面に掲示)</p> <p>iPad</p> <p>大型テレビ</p> <p>Keynote で作成した予定表、めあて</p> <p>掲示用めあて絵本「かまくらレストラン」</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           〈本時のめあて〉「じぶんのやく」や「ことば」をおぼえて、はっぴょうしよう         </div>		
	<p>4 準備をする。</p>	<p>○お客さんの椅子、自分たちの椅子と順番を決め、定位置に並べて会場作りをする。</p>	<p>児童用椅子 5脚</p> <p>学習椅子 6脚</p>
展開 (18分)	<p>5 『かまくらレストラン 場面3』の劇練習をする。</p> <p>《劇の流れ》</p> <p>♪場面転換～劇の身支度</p> <p>(1) C…ナレーションでスタート</p> <p>(2) 全員で手遊び ♪ゆきあそび</p> <p>(3) こども役 雪玉投げ、言葉の掛け合い「いたい」「ひどいじゃないか」</p> <p>(4) D「あがってたんせ」B「おばあさんの…」</p> <p>(5) おしるこふるまい、言葉の掛け合い「おいしいね」「ごちそうさまでした」「バイバイ」</p> <p>(6) T1 ナレーション→A あがってたんせプラカード→D「せーの」→全員「あがってたんせ、おしまい」</p> <p>《児童の個別の役割》</p> <p><b>[A]</b> こども役 ・最後の「あがってたんせ」プラカード掲示</p> <p><b>[B]</b> こども役 ・ナレーション (絵本読み1か所)</p> <p>・Eに掛け合いの言葉を掛ける</p> <p><b>[C]</b> こども役 ・ナレーション (絵本読み4カ所)</p> <p>・掛け合いの言葉のきっかけ役</p> <p><b>[E]</b> こども役 ・Bの言葉に応じて、まねをして言葉を返す</p> <p><b>[D]</b> おばあさん役 ・おもてなし (おしるこをこどもたちに勧める)</p> <p>・雪合戦の場面のiPadを操作する</p>	<p>○T1はiPadで絵本を進行しながら劇の支援をする。T2は他児童の移動の補助や小物の出し入れを支援する。T3はAが自分の出番に気付くことができるようにテレビ画面を指さして物語の進行に気付かせ「もう少しで出番だよ。」と知らせる。</p> <p>◇自分の出番が分かるように、テレビ画面に絵本の画像と顔写真を提示する。</p> <p>◇T1、T3はAが台詞や歌詞の一部を手話で表現したり簡単な表現を話したりすることができるよう、タイミングよく「ご (ちそうさま)」などと口元を見せながら言葉を掛ける。</p> <p>◇Bが自分の番に気付いたら台詞を話すことができるよう、台詞に沿ったイラストを大型テレビに映し出して台詞を思い出させることができるようにする。難しい場合にはT1は「ぼ (つかぼか)」など初めの文字について口形を見せながら話す。</p> <p>○Cがどの部分を読むか分かるように、テレビ画面の絵本に顔写真を付ける。Cが聞こえる声で積極的に掛け合いの言葉の台詞を話すことができるよう、Cが好きな絵本の中にある言葉(「いたい」「ひどいじゃないか」)を取り入れる。</p> <p>◇Eが自分の番に気付いて発表できるように、Bと顔を見合わせながら「おいしいね」と言葉を掛け合う場面を設定する。</p> <p>○Dが物語の一部を進めることができるよう、タブレット端末で絵本のページめくりを担当する。タブレットをタップするタイミングが分かるよう、顔写真と効果音を同時に出すなど、劇遊びの流れに沿って操作できるスライドデザインにする。</p> <p>○児童が出番に気付かなかったり、自信がないような様子が見えたりした時は、周りの児童同士で教えあうことに気付くことができるように「次は誰だったかな。」と全体に言葉を掛ける。</p>	<p>iPad (劇進行用)</p> <p>大型テレビ</p> <p>iPad (録画用)</p> <p>広角レンズ</p> <p>三脚</p> <p>BGM用スピーカー</p> <p>BGM用iPhone</p> <p>おもてなしセット (テーブル、鍋、お椀、お盆)</p> <p>【こども役】 帽子 雪玉</p> <p>【おばあさん】 かつら エプロン</p>
まとめ (15分)	<p>6 テレビ画面を見て劇発表のふりかえりをする。</p>	<p>○映像を時々停止しながら「Aさんは、手遊びの雪だるまができたかな。」「Bさんはテレビを見て気が付いて台詞が言えたかな。」「Cさんは『いたい』が上手に言えたかな。」「Dさんはおもてなしをしながら『あがってたんせ』を上手に言えたかな。」「EさんはBさんと『おいしいね』を順番に言えたかな。」などめあてに沿ったことについて児童に質問する。</p> <p>◇次時への学習意欲を高めるために、学習予定表を見て、発表する日にちや見てもらう相手 (小学部全体)を確認する。</p>	<p>iPad</p> <p>大型テレビ</p> <p>役割表</p> <p>学習予定表</p>

(4) 配置図や教材



「かまくらレストラン」真珠まりこ/作・絵  
教育画劇 刊

(5) 評価の観点

児童	・劇の内容や自分の役割が分かって、自分の出番で自信をもって台詞を話したり、自分の役に意欲的に取り組んだりする姿が見られたか。
教師	・児童が劇に進んで参加して小道具を操作したり、台詞を話したりする姿を引き出す言葉掛けや、環境の設定、教材の準備ができたか。